

教室日記<こころの天気図>発行・音田輝元



11日発表会に向けて

<子ども教室研究科>、発表会の目標は！
たのしければすべて良い！

気楽に・笑顔で！準備はできる範囲で・・・。

■学習成果発表会も、普段の授業の延長です。<気楽に笑顔で！>が基本です。

今日は、11日に向けての準備学習。たのしい発表会にするには、今日の準備学習が大切になります。とは言っても、主人公は他でもない<皆さん一人ひとり>です。だから、「自分自身が気分良くなるにはどうすればいいのか？」と考え、「各人・各班ができる範囲のことをすればいい」ということになると思います。

発表会の参観者は、10名前後になると予想します。少し緊張もされると？と思いますが、<気楽に笑顔で！>を忘れず、報告していただけたらと願っています。

私にとって11日は、「<SA・子ども教室研究科>学習発表会」という名のイベントでもあります。だから、いつものイベントのように・・・「わくわく仮説・どきどき実験！」たのしい一日になるのに決まっています！

11日は、<気楽に笑顔で！>たのしんで下さい。

3月2日（土）は和泉市でのわくわく科学教室でした！



★<ドライアイスで遊ぼう>の実験！



★<イオンと食べもの>の実験！

<ドライアイスで遊ぼう>の授業者、水口民夫さんの感想です！

●今日の和泉市の科学教室は、授業者としてとてもたのしく過ごすことができました。佐藤さんらのスタッフのみなさんのてきぱきした動きは、熟練の域に達しているのではないかと思います。次回は、佐藤さんご自身が授業をされると良いと思います。「仮説実験授業は熱心な教師ならだれでもできる」というフレーズも、「熱心な人ならだれでもできる」と変更しても良いと思います。これからは、(元)教師以外の方が、主体的に授業をされる時代になると思います。仮説提唱50年目の年は、そういう今までとはちがっ

たことをキッカケの論理でやっていこう、という板倉先生の言葉に共感を覚えるからです。

●今年の夏も和泉市でぜひやってください。部屋の数が確保できるなら、4～5クラスぐらい開設可能だと思います。なんとといっても参加希望者が150人近くになったということですから驚きです。和泉市はこれから開拓すべき街です。ほくも「仮説屯田兵」として鎌のかわりに実験道具をもって乗り込みたいと思います。

今回は、ぼくの息子（4月から富田林の先生に）も参観して、子どもと親の食いつきに驚いていました。やはり、仮説を知らない人には、仮説の授業を見てもらうのが一番です。



★I・Mさん（5・5）＊今回はじめての〈イオンと食べもの〉の実験で、楽しかったです。また、ちがう実験をしたいです。学校なんかでできない実験だからとても楽しかったし、とてもわかりやすかったです。

★保護者（5・5）＊身近な物を使って、興味がつきないたのしい実験でした。学校ではできないような品物が出てきて良かったです。食べたりすると記憶にもよく残るので、子ども達が〈イオン〉を学ぶたびに

思い出すのではないかと思います。また、ぜひ別の実験をやっていただければと思います。

●最も尊敬する板倉聖宣先生のお話。「心は板倉先生に続け！」ですが・・・

立候補の言葉 科学史学会の次期会長候補として立候補します。（板倉聖宣）

私は東大に日本で最初の科学史専門学科として設けられた学科の最初の卒業生です。私が学部を卒業したとき、科学史の大学院は開設されなかったのので、私は物理学科の大学院に席を置き、本学会に入会して関東例会を盛り立てる一方で〈物理学史分科会〉を立ち上げました。そこで本学会は私の唯一の母校というべき存在です。活気に満ちていた学会の中で私も幹事／委員ともなり、学会の制度も整え、学会編の『日本科学技術体系』全25巻の創刊に取り組みました。その後私は国立教育研究所に勤務して、世界の科学教育の改革を目指して「仮説実験授業」を提唱することに成功しました。そのため私は、学会から疎遠になりましたが、科学史の研究を止めませんでした。〈脚気病の研究〉にも取り組み、森鷗外が〈現象論的法則〉に無知なために、沢山の人命を死なせたことを解明し、〈丙午迷信〉の研究で「迷信は〈一種の文明病である〉ことの解明に成功しました。そして、本学会で活躍していた中村／菅原さんなどと共同研究を組んで学会にも大いに寄与しました。私の知るところでは、『科学史研究』にもっとも多く論文を発表したのは、今なお私なのです。

その間に仮説実験授業は大いに発展して、今年は提唱50年を迎えます。ところが今回の学会役員選挙の記事を読んで、本学会は会員数が減少し、財政難にも陥って、存亡の危機にあることを知り驚きました。仮説の研究会の会員数は本学会のそれを凌駕しているのです。会長候補もいなくて「再選挙」という有り様です。そこで私は居ても立っても居られない気分になり、会長に立候補することにしました。本学会の活気のあった時代の中心メンバーだった私なら、抜本的な改革案や少しはいい智慧が出せると思います。良かったら、私を本学会の会長に起用してみませんか。 ★83歳になる板倉博士！お元気で嬉しいです。（音田）